

先進国で出生率 3以上の国がある？

日高医師会

北海道日高振興局保健環境部保健行政室(北海道浦河保健所)

さくまのぶゆき
佐久間信行

先進国で出生率3以上の国がある？ そんなことはあり得ないと思うかもしれませんが、OECD加盟国のイスラエルがその国です。

マルサスが「人口論」、その後ローマクラブが「成長の限界」を発表して以来、「人口は自然に増加するのみ、減少することなどあり得ない」と考えられ、かつては、「いかに人口の増加を抑制するか」と議論されていた。そのような時代を、皆様は覚えていますか？ ところが、現在は逆に、先進国では、人口減少の問題が議論されている。

我が国の合計特殊出生率（以下、「出生率」と略）は、1949年に4を超えていたが、その後急速に低下し、1956年には2.22となり、人口の置換水準（状況により変動する）を下回った。その後、第二次ベビーブームもあったが、1975年に2を下回り、以後低下傾向にある。この時、人口減少問題や保育所のことはほとんど議論されていなかった。

確かに、人口の増加には、保育所の充実が必要なのだろうが、もっと本質的な問題があるような気がしていた。皆様は、進化論を良くご存じと思うが、現在は、行為や心理学も進化論に基づいて説明されることが増え、行動進化学、進化心理学という文字を目にすることが多くなった。結局、「人口減少は、子供を作ろうという淘汰圧力が弱くなっている」ということになる。

さて、イスラエルについて述べると、2019年の出生率は、3.1である。これは、皆さんが人口急増国としてご存じの、インド、ペルー、南アフリカ、インドネシアと比較しても高い。日本の倍以上である。平均寿命は、男性が日本とほぼ同じ、女性は、日本より3歳弱短い。GDP（国内総生産）も上昇しており、日本の1人当たりのGDP 3万8400米ドルを抜いて、4万200米ドルとなっている。日本人としてとても焦る。

イスラエルの出生率が高い理由は3つあり、第1は、ユダヤ人は、子孫繁栄を重視している。約2000年間祖国を失い、その後周囲の民族と同化せず、建国したというのは、すごい精神力である。最近では、ナチスドイツによる大量虐殺で、当時ヨーロッパに居住していたユダヤ人の2/3の600万人が虐殺された。子孫を増やすことは、神からの「生めよ増やせよ地に満てよ」という戒律を守り、民族存続に不可欠と考えているのだろう。

第2は、高い教育を受けた女性が、多くの子供を

産む傾向がある。ユダヤ人の移民は高い教育を受けしており、それらを積極的に受け入れている。

第3は、教育費を安くするなど、子育てに優しい政府の政策である。

さらに、イスラエルは民主主義国であり、ユダヤ系の人口の増加率が、アラブ系に負けると将来的に国の存在意義を失い、アラブの国になってしまうという危機感もある。最終的には、この危機感が国を挙げての高出生率につながっているのだろう。さらに、国はアラブ諸国に囲まれ、戦いに負ければ、直ちに国を失ってしまうことを、全国民が認識しており、女性の徴兵制度もある。一方、アラブ人にとっては、自分たちの土地にきた迷惑な存在がイスラエルという国となる。

さて、最近是不妊治療が良く行われているが、高齢でなくとも子どもの出来ない夫婦は増加しているような印象を受ける。2002年に札幌市円山動物園でヨウスコウワニの屋内繁殖に、世界で初めて成功した飼育員の記載にもあるが、どうしても栄養過多で水温も快適だと、繁殖できないので、絶食したり、冷水を入れたり、自然に近いストレスを与えて、繁殖に成功している。ワニやイスラエルや移民ではないが、妊活をしている夫婦には、肉体を鍛える等、ある程度のストレスが必要な気がする。

一般的に「出生率が高い国は短命である」ので、今まで私は、「生物はそのエネルギーを、体の修復（長寿）と生殖の両方に費やすが、両者を同時に行うのは難しい」と、思っていた。しかし、イスラエルの平均寿命は、日本人とそれ程変わらない。しかもこれは、反復する中東戦争やテロが頻発する中でのデータである。国民の支持のもと、イスラエルが誇る軍事産業の監視システムにより、テロ行為はだいぶ抑制されている。このような緊張状態にあると、長寿と繁殖は両立するかもしれない。このような考えが正しいかどうか？ これからの医学の発展に期待しております。